

## 北海道滝川市の大樹さん

特別住民番号525

平成6年3月4日、我が家に待望の赤ちゃんが産まれました。3,374gの男の子です。しかし、産声は聴かれず、すぐ処置室へ連れていかれました。不安なまま赤ちゃんが、そばにくる日を待つしかありませんでした。医師からは、羊水を吸ったため肺炎をおこしたので、2,3日抗生物質を使って治療すれば治ると説明されました。保育器の外からみる我が子は、大きくしっかりしてるようにみえるのですが、日に日に悪くなり、とうとう人口呼吸器を装着し、遠くの病院へ搬送されてしまいました。私達夫婦は、我が子を抱けないまま遠くで見守っているしかない無力さを感じる日々、そこでの検査で、先天的な筋肉の病気があると言われました。どうして、何故と、いろいろな思いが頭の中を駆けめぐり泣く毎日、ですが一人の子の親となった以上、しっかりしなくてはと、とりあえず名前は、夫には「大」はつけたいという思いがあり、大きい樹木のようにしっかり地面に根をはって、大きく立派に育って欲しいという願いをこめて、大樹と命名しました。出生届を提出してから、字画を調べると障害運のあることがわかり、大変ショックを受けました。そんな字画で人の人生なんてわかるわけない。そう思いながらも、事実、うちの子は障害児、名前を変えるのももう無理、高い印鑑を買って字画を変えてみたり、神様の水を飲ませたりしてみました。そんなんで治るわけありません。5年経った今でも呼吸器をつけ、入院生活を送ってますが障害も個性と思って見られるようになりました。健常児では、気づかないとても大切なことを教えられましたし、喜びもあります。生きていてくれるだけで、親として幸せです。名前のように、子供も親も大きく根をはって伸びていってます。病院で散歩していると、みなさんから「大ちゃん」と声をかけられ、とてもかわいがってもらってます。大樹と名付けて、良かったと実感しています。大樹町も、大きくご発展し続けていくことをお祈り致します。(父・母)



## 北海道函館市の大樹さん

特別住民番号541

我が夫は、大樹町で生まれました。ゆえに「大樹」と命名されたのです(父親は大樹高校?の教員だったそうです)。ちなみに二歳年下の弟は豊頃町にかけて「豊樹」といいます。自己紹介する時「私は大樹町で生まれたので大樹と名付けられました」と言うと、大ウケして必ず覚えてもらえます。十勝には一度行っただけで、その時は帯広、池田町くらいしかまわれなかったの、夫の生まれた町に是非一度行ってみたいと思います。(大樹の妻より)



## 東京都江戸川区の大樹さん

特別住民番号559

私には、「直樹」という兄と、「美樹」という弟がおります。兄弟全てに「樹」という文字が付いており、それぞれの名前の由来の一つとして、字のごとく、「素直な樹の様に育って欲しい。」「大きな樹の様に育って欲しい。」「美しい樹の様に育って欲しい。」という両親の願いが込められている様です。私は兄弟の中で一人だけ「樹」の読み方が違います。「だいじゅ」といいます。少し変わった読み方なので、子供の頃、周りの人達からは、なかなか「だいじゅ」とは読んでもらえず、「だいき」又は「ひろき」と間違われていました。自分の名前を正しく読んでもらえない事は、子供心として、少し悲しかった事を覚えています。“よらば大樹の陰”という言葉があるのを知っていますか？ 私の名前の、もう一つの由来として、この言葉の意味もあるのだそうです。何かあった時、大きな樹のそばにい



れば安心だ…という様な意味の通り、いざという時、この人を頼れば大丈夫…と思われる人間になって欲しいという事の様です。そんな両親の願いが込められている名前を、とても大切にしたいと思うと共に、両親の期待に応える事が出来る様に、大きな人間になりたいと思っています。今でも、なかなか「だいじゅ」と読んでくれる人はいませんが、子供の頃に感じた悲しい思いはありません。むしろ、この名前がすごく気に入っています。

## 北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号560

### 「大樹」命名の由来

私は、昭和11年1月1日に、栃木県佐野市で生まれました。命名者は、祖父の義樹です。男兄弟は4名ですが、全員「樹」がついています。さて、命名の由来ですが、「大人物になるように」という願いだそうです。小学校低学年の頃は、祖父によく呼びつけられ、縁側に正座し、お説経を聞かされた思い出があります。「世の中は、駕に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋を作る人がいる。」「お前は、偉くなって大人物になり、駕に乗る人になれ。」「その為には勉強をせよ。」「勉強しないと、頭が空っぽな、独活の大木になってしまうぞ。」等々です。足がしびれ忍耐力が培われたと思います。「寄らば大樹の陰」とかで、人に好かれ、人は集まるのですが、「お金」には縁がないようです。ちなみに、息子は冬樹と命名しました。風雪に耐えて、北海道の大地に根を張るようにと、願いをこめました。独身です。よろしくお願ひします。



## 山形県山形市の大樹さん

特別住民番号566

大樹という名前には、二つの意味がこめられています。一つには、大樹のように大きく育ってほしいという願いがあります。また、大樹の母は、タイ人です。つまりタイと日本の架け橋、タイの木という意味があります。タイ語でトンマイパテートタイ=タイの木という意味です。つまり大樹のように大きく、そしてタイと日本の架け橋になってほしいという願いがこめられています。(父)



## 北海道今金町の大樹さん

特別住民番号571

島田大樹(たいき)、平成元年4月生まれ10歳。三人兄妹の一番上。今金小学校の4年生。体格良。正義感強く、人に優しい。魚や昆虫など生き物が好き。図鑑などで調べ、結構知識もある。スポーツも大好き。今は、サッカー少年団でキーパーをやっている。学業は並以上かな。根気、集中力がすごい。そうそう、幼い頃から絵を描くのが好きで、頭の中に浮んだ事を、物凄い勢いで絵にしてゆく。まだまだチンチンに毛も生えていないガキ。なのに温泉に行けば一丁前にタオルで前を隠す。クラスの女の子の話をする時はブッキラボウ。たまには寝グセを気にして、朝の忙しい時に鏡の前で5分程。そろそろ、親と話をするのが照れ臭くなってきたのかな。近頃では相当生意気な言葉使い、言い回しをする。ふてくされて黙りを決め込んだり、弟に八つ当たりする事も。まあ、親の願っている様に、いや、それ以上に、スクスクと育っていると思う。10年前、大樹と命名したのは私。役場への届けは、出生14日目。係の人に、「やっと決まりましたか。」と、冷やかされた。人や本人に、命名の由来を尋ねられた時は「寄らば大樹の陰」とだけ答える。聞いた



人の多くは、「渡世の上手い人間になれ、楽をして生きよ」と願い付けたと考えるのだろう。「またァ」と、ごまかす様に笑う。そして私も内心で笑う。名前は、大樹だよ。寄らば大樹の陰の「大樹」。多くの人が慕い集ってくれる人になれという事だ。「タイキ晩成」風雪に耐えねばならない事も多々有るだろう。だが、陽の光を十分に吸収し、ゆっくりと成長して行って欲しい。(父)

## 千葉県船橋市の大樹さん

特別住民番号573

ぼくが生まれる前、候補の名前がいくつかあったけれど、なかなか決まらなかった。でも、ぼくが誕生した時、産声の大きさと、体格の良さで、お父さんは瞬間的に、「この子の名前は、大樹しかない！」と思ったそうだ。

“大地にしっかりした根を張り、大空に向かって枝を伸ばし、葉を繁らすように”と願いを込めて命名されたそうだ。



## 東京都品川区の大樹さん

特別住民番号588

僕は、昭和58年(1983年)8月14日に、三人姉弟の長男として生まれ、現在高校1年生です。家族構成は、公務員の父と保母の母、姉(高校2年生)、弟(中学2年生)の5人家族です。でも家の近所に大好きな祖母も住んでいてよくるので、実際は6人家族のようなものです。

僕の「大樹」(たいじゅ)という名前は、父が命名したそうです。ちょうど産まれる頃に、テレビコマーシャルで大きな木の映像が流れていて、そのイメージとある生命保険会社の「大樹」という保険商品の名前からつけたようです。安易といえば安易な命名ですが、だいたい姉にしても、女優の吉永さゆりのイメージから、優しい女の子になるようにということで「さゆり」という名前をつけたそうです(今では姉は吉永さゆりというより松本明子に近いですが)。弟も「西城秀樹」のように恰好よくて優秀な子になるようにということで「秀樹」とつけたそうですが、これも全く逆の感じになっています。親はネーミングに苦労したと聞いていましたが、本当は適当にテレビでも見ながら、名前をつけたとしか思えません。

でも僕はこの「大樹」という名前が気に入っています。親はすくすく育て大きな身体と心を持った人間になって欲しいという願いを込めてつけたと調子のよいことを言っていますが、僕だけは姉弟の中でその願いどおりに身体と心も大きく育てているようです(エッヘン)。

今は志望どおりの高校に進学し、勉強(?)と部活(軟式テニス部)に頑張っています。夏休みも部活を頑張り日焼けで真っ黒になっています。

ただ僕の名前は、日本でも一人しかいない貴重な名前だと思っていたのですが、なんとなんとこの高校のしかも同じ部活に同姓同名の先輩がいたのにはびっくりしました。読み方は「ひろき」と読むそうですが、それにしても驚きました。部活のみんなも最初はびっくりしていました。でもその先輩とも名前のおかげでうちとけて話すこともできましたし、本当によい名前だと思っています。



## 千葉県流川市の大樹さん

特別住民番号590

私の名前「大樹」は国語の高校教師であった伯父が名付けてくれました。

いつも姓にあったよい名前と誉められました。

「大樹」は私の子供の頃は珍しい名前でしたが、最近是非常に人気があり、名前のベストテンにも入っており、少し残念な気もします。



帯広にむかうまでの大樹町の雄大な土地が私たちは大好きで、この土地にちなんで男の子が生まれると必ず“大樹”と名付けようと決めていました。ちなみに弟は“幸樹”といいます。うちの大樹は名前と大樹町の様にのびのびとのんびりと育っています。(父)

